

令和5年度総合型選抜1期

小論文課題

〔設問〕

次の文章を読んで、コミュニケーションについて、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

「間」というものが気になったもうひとつのきっかけは、コロナ禍で定着した、Zoom（ズーム）ミーティング^{注1}である。

（中 略）

Zoomを使い始めた当初は、ちゃんとつながった、映った、会話が成立した、と新しい方式にみな多少はしゃいでいて、それぞれの場から集う一体感と高揚感があった。会が終わっても、しばらく手を振ったりして名残を惜しんでいたものだ。けれど、そんな状況は長くは続かなかった。いまや、ミーティングが終わると、みな一斉に「退出」ボタンを押し、さっさと消えてしまう。窓ならば「閉じる」という動作がありそうなものだが、Zoomの窓はまさに一瞬で「消える」。

Zoomはもちろん便利だが、セミナー室へみなでぞろぞろと移動していたときのような「道中」や、会が終わったあとにも何となく続いていた会話が、スパッと切り捨てられた。時間的にも空間的にも間がなくなったことで、無駄とともに、余白の面白さも省かれたと言えよう。

一方、Zoomミーティングで誰かが発表するときには、聴衆側は自分のマイクとカメラ機能をオフにして視聴することが多い。そのあいだも、顔の映らなくなった窓は表示されている。その黒い窓の向こうに、人はいるはずだけれど反応が見えないという、不気味な「間」が漂う。この居心地の悪さもまた新しい。時代によって「間」は変わる。

注1：Zoom Video Communications 社が提供するクラウドコンピューティングを利用したWeb会議サービス

【2020年11月13日 京都新聞 現代のことば 永田 紅『代本板とZoom』より抜粋、改変】